

個別ケアの実践こそが 福祉用具定着のポイント

社会福祉法人 久義会
特別養護老人ホーム 高秀苑
施設長 山下 聡理

問題提起・テーマの背景

・福祉用具導入の現状と課題

- ①介護は人の手でするもの？
- ②使い方が難しい・操作を覚えるのが大変
- ③移乗に時間がかかる
- ④高額

・「定着」の重要性

- ①入居者・介護者双方の負担軽減
- ②自立支援
- ③コストパフォーマンス

・本日の発表の目的と焦点

「なぜ定着しないのか？」その解決策としての「個別ケア」

1.福祉用具が定着しない原因の分析

1) 定着を阻む要因

- ①介護者側の要因・・・使い慣れていない（変化への抵抗）
負担感が強い
- ②入居者側の要因・・・怖さがある
慣れていない
本人に合っていない
- ③福祉用具自体の要因・・・使いにくい
環境に合っていない

2) 画一的な福祉用具の選定の限界

- ・「誰にでも使える」
- ・カタログでスペックだけで選ぶ
- ・疾患名だけで選ぶ
- ・とりあえず導入する

しかし・・・現実には、

「誰にでも合う」福祉用具は存在しない

2.個別ケアが定着のポイントとなる理由

1) 個別ケアとは

入居者の「望む暮らし」を深く理解した上でケアする
単なる「できる・できない」という評価ではない

ポイントは・・・

入居者の価値観・生活習慣・住環境など

に対して、

介護者の状況（力量・知識量・経験量など）はどうか？

2) 個別ケアに基づく福祉用具選定のステップ

①「望む暮らし」を把握する

- ・ 本人の希望（時間の意向も含む）
- ・ 日中の過ごし方（場所も含む） など

⇒ 意向に沿ったケアを行うにはどのようにすればいいのか？

選択肢の1つとして、福祉用具がある

**自分たちの施設にある福祉用具の理解を
深めることが重要**



福祉用具の自主勉強会

- ・職員が使えないと、使える場面での選択肢にあがってこない！！



②チャレンジ（実践する）

- ・本人の意向に合わせた福祉用具を選定

例えば・・・畳で過ごしたい入居者が「トイレに行きたい」と希望を仰った時、職員1人では畳から車イスに座っていただくサポートが難しい！！

⇒自分でできること・サポートが必要なことは何か？

⇒こういう時、リフトがあれば・・・使いこなせれば・・・
どういうリフトがいいのか？

**入居者の望む暮らしに必要なサポートの場面から
導入を検討していく**



低床のソファからどうやって車イスに？

どんな福祉用具があればいいのか？

本人の暮らし・身体機能に合わせて
福祉用具を選ぶ

入居者の意向

【リビングでテレビを観て過ごしたい】

- ・ 今までの暮らしを続ける
 - ・ 転倒のリスク
 - ・ 本人の過ごしやすさ
- ⇒ 低床のソファで過ごされている



③定着に向けての指導

- ・チャレンジ（実践）から評価へ

リフトの使用は適しているのか？（多職種で評価）

使い方は正しいのか？

チーム全員が使えるのか？

**⇒チームで承認を得て、その人の個別ケアとして落とし込む
（高秀苑においては24シート）**

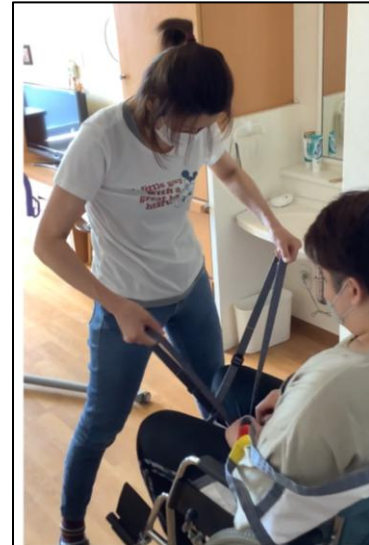
24Hシート 記載時 【移乗⑥-1 車イス→ベッド】 床走行リフト

①車イスに座った状態でシートを装着します。

※シートの装着の仕方

前かがみになって頂き、シートの中央を合わせて
下側は尾てい骨に合わせて
反対側もしわを伸ばして広げて
足側のシートを左右それぞれ大腿骨の下を通し
両足の間から引き出します。

ユニットリーダーで構成された
マニュアル委員会で
福祉用具の使い方の
マニュアルを作成
(主体的に取り組んでもらうため)



- ②リフトを入居者の前に持ってきて、ハンガーを入居者の胸の前あたりまで下げます。



- ③頭側のフック→足側のフックの順でハンガーをかけます。
足側のフックの紐はクロスしてハンガーにかけます。



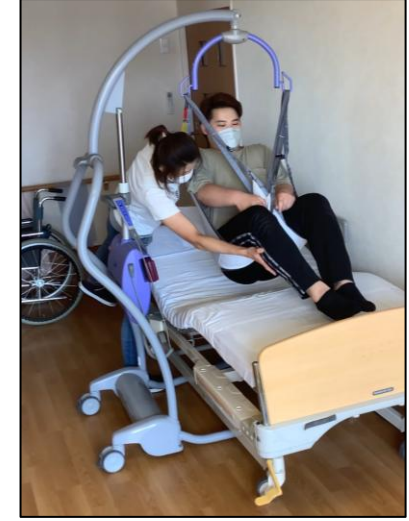
- ④リモコンでシートが少し張るところまで上げて、シートのしわを伸ばします。

- ⑤入居者の臀部がベッドより少し高くなるようにシートを上げます。（15 c m程度）

※スリングシートがしっかり身体を支えているか、痛みがないかを目視と口頭で確認し調整します。



- ⑥入居者のかかとがベッドに当たらないように少し手を添えて浮かせながら、シートがベッドの中央辺りにくるまで、リフトを移動します。



- ⑦ベッドにゆっくりと入居者をおろし、シートを抜きます。
※シートを抜くときはベッドをフラットにしておく
ベッドにおりてもらう時はギャッチアップした状態



24シート（川上 忠徳様） ① 長期目標：家族との会話を楽しむことができる

※時間は必ず記入して下さい

時間	生活リズム	意向・好み	自分で出来る事	サポートが必要な事	備考・注意点・留意点
0:00	排泄	無理に動かさなくて欲しい 自分のペースで動きたい	ベッド柵を持って体の向きを変えます。	【排泄】（ベッド上でのパット交換） ・そっと体に触れて、ベッド上でパット交換をさせて頂く事を伝えます。 ・姿勢保持に使用しているクッションを全て取り除きます。 ・仰臥位になって頂き、膝を立てて頂き、膝を少し左右に傾けながらズボンを下げるサポートをします。 ・テープ止めのテープを外し、陰部巻き用のパットを外し排泄があるかを確認します。 ・パット内に排泄があれば、清拭タオルで清拭のサポートをし、陰部巻きのパットを当てます。 ・テープ止めのおむつを当てて、膝を立てて頂き、左右に少し膝を傾けながら、ズボンを上げます。 ・ベッド柵を挿んで頂き、左右の仰臥位になって頂き、衣類の整容を行います。 【体位交換】 ・訪室時と反対の方向を向いて頂く様に伝え、ベッド柵を挿んで頂き体の向きを変えて頂きます。 ・クッション類を当てて姿勢の確認をします。 ベッドは最低床にし、布団を掛けて、トイレの電気のみ点けて、残りは全て消灯して退室します。	使用パット：テープ止め+カラダワイドフィット +からだカーブロング（陰部巻き） AAMSを確認し、覚醒・体動があれば訪室し、パットを 触っておられる等あれば排泄が無いか確認します。 排泄があれば都度パット交換をします。
1:00					
2:00	排泄	無理に動かさなくて欲しい 自分のペースで動きたい	ベッド柵を持って体の向きを変えます。	【排泄】（ベッド上でのパット交換）・【体位交換】 ベッドは最低床にし、布団を掛けて、トイレの電気のみ点けて、残りは全て消灯して退室します。	
3:00					
4:00	排泄	無理に動かさなくて欲しい 自分のペースで動きたい	ベッド柵を持って体の向きを変えます。	【排泄】（ベッド上でのパット交換）・【体位交換】 ベッドは最低床にし、布団を掛けて、トイレの電気のみ点けて、残りは全て消灯して退室します。	
5:00					
6:00	排泄	無理に動かさなくて欲しい 自分のペースで動きたい	ベッド柵を持って体の向きを変えます。	【排泄】（ベッド上でのパット交換）・【体位交換】 ベッドは最低床にし、布団を掛けて、トイレの電気のみ点けて、残りは全て消灯して退室します。	
7:00	排泄	無理に動かさなくて欲しい 自分のペースで動きたい	ベッド柵を持って体の向きを変えます。	【排泄】（ベッド上でのパット交換）・【体位交換】 ベッドは最低床にし、布団を掛けて、トイレの電気のみ点けて、残りは全て消灯して退室します。	
8:00					
9:00					
9:15	目が覚める			訪室し、朝の挨拶をし、朝の支度をすることを伝えます。	
	排泄	無理に動かさなくて欲しい 自分のペースで動きたい	ベッド柵を持って体の向きを変えます。	【排泄】（ベッド上でのパット交換） ※起床の際は、ズボンの履き替えをサポートします。	
	起きる	無理に動かさなくて欲しい 自分のペースで動きたい どこかを掴んでいると安心します	ベッド柵を持って体の向きを変えます リフトのバーを掴みます	【移乗：ベッド→車いす】（床走行リフト使用） ・ベッド柵を挿んで頂き、側臥位になって頂きながら、リフト用のシートを本氏の体の下に敷きます。 ・リフトをベッドの横に設置し、リフト用のシートをリフトに掛けます（必ず指差し確認をします）。 ・左側のベッド柵を外し、リフトを上げていきます。 ・リフトを一番上まで上げたら、車いすまで移動します。 ・車いすのチルトを最大に傾け、ゆっくりとリフトを下げていきます。 ・車いすに座られたら、座位の安定を確認します（座位が浅ければ、リフトを少し上げて座位の調整をします）。 ・車いすのチルトの角度を浅くして、靴下、靴の着用をサポートします。	
	着替える	無理に動かさなくて欲しい 自分のペースで動きたい	上の服を脱ぎます。 上の服を着ます。	【着替え】（サポート） ・着替える事を伝え、2種類程度、服を見て選んで頂きます。 ・前に屈むサポートをし、背中を撫と、ご自身で上の服を脱ごうとされるので、その動きに合わせて難しい所をサポートします。 ・服を着る際は、袖を通しやすい様に本氏の前で衣類を構えると袖を通して下さるので、その動きに合わせて、難しそにされている所（頭を通す等）をサポートします。 ・前に屈むサポートをし、背中の部分の衣類の整容をします。 ・ボタンの開け閉めはサポートをします。	
	カーテンを開ける 歯を磨く	自分のペースでしたい うがいはしっかりとしたい	歯ブラシで歯を磨きます コップを持ってうがいをします 洗面台の手すりを持って前に屈みます 歯磨きが終われば、歯ブラシを洗面台の上に置きます。 タオルで口を拭きます	時間等を伝え、カーテンを開けさせて頂く事を伝えます。 【口腔ケア】（手渡し・見守り） ・洗面台の前まで、車いすを押してお連れします。 ・チルトの角度を完全にフラットにします。 ・歯ブラシに歯磨き粉を付けて手渡しします。 ・コップに水を入れて、洗面台の本氏の手の届く位置に置きます。 ・うがいの際に、前に屈みにくい様子があれば、ガーグルベースを本氏の口元に近づけ口に含んだ水を出して頂きます。 ・うがいが終われば、タオルを手渡し口元を拭いて頂きます。	口腔ケア用品：歯ブラシ・歯磨き粉・うがい用コップがあります。 義歯：なし（全てご自身の歯です）
	顔を洗う			【洗面】（清拭） ・温かいお湯で濡らし、軽く絞ったタオルで顔を拭かせて頂きます。 ・目脂、口元の汚れをよく観察して拭かせて頂きます。	洗面台の上を拭いたりされることもあります。
	髪を剃る	自分のペースでしたい	電気シェーバーで髪を剃ります	電気シェーバーの電源を入れて、本氏に手渡し、出来る所はご自身で剃削りをして頂きます。 剃り残し（特に、首元、もみ上げ部分、顎の下）があれば、職員がサポートします。	
	髪を梳く	寝ぐせが気になります	ヘアブラシで髪を梳きます	ヘアブラシを手渡し、髪を梳いて頂く様に伝えます。ご自身でされるのが難しい様子であれば、サポートします	



3.まとめ

福祉用具の定着は、単なる福祉用具の問題ではない。

福祉用具と入居者をつなぐもの・・・個別ケア

最終的には、福祉用具の種類が充実し、アセスメントをしっかりと行い個別ケアが徹底できれば、入居者全員に福祉用具を使うことは可能。

しかし、導入の時点ですまづくのであれば、まず、「どの入居者に」「どのような暮らしの場面で」必要なのかを考えてみることが重要。

福祉用具導入における変化

①入居者

- ・望む暮らしが継続できる

②職員

- ・力量の違いがあっても、同じケアを提供できる
⇒職員の力量によってサポート方法は違っても、
同じケアを提供できる
- ・2人でしなけければできなかったことが、1人でできる
⇒身体的負担の軽減・1人が別の業務にあたることができる
- ・安全にサポートすることができる
⇒精神的負担の軽減、選んでもらえる職場になる